

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00543

研究課題名（和文）消滅の危機に瀕するダバ語方言の記述研究

研究課題名（英文）A descriptive study of endangered varieties of the nDrapa language

研究代表者

白井 聡子（Satoko, Shirai）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・講師

研究者番号：70372555

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：このプロジェクトは、過去に十分な記述がなかったダバ語の諸方言の実情を初めて明らかにした。まずダバ語方言の現地調査を行い、ドキュメンテーションを進めた。一次資料と二次資料を含む15方言のデータについて対象語彙集を作成した。これらのデータに基づいた地理言語学的分析を行い、ダバ語の方言群が北部、中部、南部の三つに分類でき、かつ、それらが方言連続体をなしていることを具体的に示した。さらに、メト方言について一次資料を用いて記述的研究を進めた。特に、主題化、体言化、人魚構文、証拠性、否定、方向接辞などについて詳細な分析を行った。これらの成果は学会発表、学術論文の形で公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ダバ語は消滅の危機に瀕する言語の一つだが、過去に十分な研究がされていなかった。このプロジェクトでは多くの方言を初めて調査し、その方言の話される場所と語形式を分析することにより、方言区分とその形成過程を明らかにした。このことは、言語文化の多様性の記録という重要な意義がある。また、方言形成過程を明らかにしたことで、歴史的研究にも寄与する。さらに、このプロジェクトではダバ語メト方言の文法現象を詳しく分析した。これは言語文化の多様性の詳細な記録につながることも、人間言語の特性を明らかにしようとする言語類型論の研究および広域の地理的分布から言語特徴の広がり歴史を研究する地理言語学的研究に寄与する。

研究成果の概要（英文）：This project has yielded groundbreaking insights into dialects of the nDrapa language, which were previously undocumented. We conducted field research and advanced the documentation of this language. We compiled a targeted vocabulary collection for 15 dialect variants from both primary and secondary sources, laying the groundwork for further linguistic analysis. Through geolinguistic analysis of the nDrapa dialects, we have classified the dialect groups into three main regions: southern, central, and northern. This classification also revealed a dialect continuum within these regions. Additionally, using primary sources from the Maetro dialect, I conducted descriptive studies on several linguistic features of this language. These included topicalization, nominalization, mermaid construction, evidentiality, negation, directional affixes, and classifiers.

We published these results through academic conferences, journals, and paper collections.

研究分野：言語学

キーワード：ダバ語 危機言語 現地調査 言語地図 国際連携 記述言語学 地理言語学 方言

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究対象について

本研究課題が研究対象とするダバ語 (ISO 639-3: zhb) は、中国四川省道孚県南部から雅江県北部にかけての地域で話される言語である。系統上の位置づけには議論の余地があるものの、主要な先行研究においてシナ=チベット語族チベット=ビルマ語派チアン語支とされていた。話者数は約 8,000 人から一万人程度と推定される。書記体系はない。ダバ人の一部は通い婚など独特の文化を保持しており、近年、文化人類学的観点から多大な関心が寄せられている(馮 2010 など)。しかし、ダバ語は、ダム建設による移住や急速な漢語化など、社会的環境変化に伴い、消滅の危機に瀕している。

(2) 当時の研究状況について

研究開始当初、一般に、ダバ語の方言は道孚県内で話される北部方言群(ダテ方言)と雅江県内で話される南部方言群(ダメ方言)に分かれると考えられていたが、その妥当性は検討の余地があった。ダバ語が話される地域には 45 の村が存在し、村ごとに方言差異がある。当時までに初歩的な記述が刊行されていたのは、南部方言に属するウェト方言(龔 2007)、北部方言群に属するダト方言(黄 1990, 1991, 2009; 黄主編 1992)、メト方言(白井 2013 など一連の拙著)で、いずれもそれぞれが一つの村の方言を対象にした研究であった。このほかに、北部のディル(グィッデ)方言の音声・音韻に関する報告(鈴木 2006)、黄陽氏(中国・西南交通大学)が実施中であった、南部のサショ方言の記述研究(未刊)があり、また、申請者がこれまでに基礎的調査を行った、南部のニャト方言、北部のカラケ方言などの資料の一部が、白井(2018)などにおいて公開されている。しかし、研究開始当初までに公開されていた資料は、簡単な文法概説、語彙集、少量のテキスト、もしくは類型論的個別テーマに沿った研究成果であり、包括的なレファレンス・グラマーは出版されていなかった。また、上記以外の方言の資料は基礎語彙を含めて発表されたことがない。そのため、45 の村の方言が、純粋に言語学的観点から、どのように分類され、また、どのように形成されたのか、解明するに足る資料の収集自体がなされていない状況であった。

【参考文献】

- 馮敏(2010)《扎巴藏族—21世紀人類學母系製社會田野調查》北京:民族出版社。
龔群虎(2007)《扎壩語研究》(中国新發現語言研究叢書)北京:民族出版社。
黄布凡(1990)《扎壩語概況》《中央民族學院學報》1990.4: 71-82。
黄布凡(1991)《扎壩語》戴慶厦, et al. 《藏緬語十五種》pp. 64-97. 北京:北京燕山出版社。
黄布凡(2009)《川西藏區的語言》北京:中國藏學出版社。
黄布凡(主編)(1992)《藏緬語族語言詞匯》北京:中央民族學院出版社。
白井聡子(2013)「ダバ語における文の下位分類」澤田英夫(編)『チベット=ビルマ系言語の文法現象2: 述語と発話行為のタイプからみた文の下位分類』. pp. 391-421. 府中:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
白井聡子(2018)「ナ=チアン諸語の「太陽」に関する一考察」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』20: 31 - 45. (Open access: <<https://opac.ll.chiba-u.jp/da/curator/105922/>> <DOI: 10.20776/S21857148-20-P31>)
鈴木博之(2006)「ダバ語紅頂[Ngwirdei]方言の音声分析と方言特徴」『京都大学言語学研究』25: 105-129。

2. 研究の目的

本研究課題では、[1] ダバ語方言資料のドキュメンテーション、[2] ダバ語文法の包括的記述、[3] ダバ語方言の歴史的形成過程の解明、の3つを主要な目的とした。

[1] ダバ語方言資料のドキュメンテーションについては、各村方言の現地調査を行い、基礎語彙、基本例文データを収集する。これらのデータに基づいて Swadesh による基礎語彙 100 語の対照語彙集および語釈付きテキスト集を複数の方言について作成する。語彙数を可能な限り拡充するほか、ダバ語において方言差異の出やすい語彙を抽出して、[3] に向けたリストを作成し、現地調査による一次資料収集を実施する。将来的に 45 村すべてについて語彙データを収集し、音韻分析を行って整理した上で公開することを目指す。テキスト集については、現地調査で収集するほか、メト方言やニャト方言等について過去に収集した未公開のテキスト資料を、方言対照の観点も含めて分析した上で公開する。

[2] については、ダバ語メト方言の文法調査およびテキスト資料収集を実施し、全容を記述する参照文法を作成する。また、[1]で収集した他方言の資料にもとづき、メト方言と対照する形で、方言間の文法差異についても分析と記述を行う。また、研究協力者の黄陽は南部サショ方言に基づく参照文法を執筆する。

[3] については、まず、[1] で得られた資料から、語彙・文法を含む言語特徴の地理的分布を

明らかにする。その上で、地理分布と比較言語学的分析にもとづき、方言区分を明らかにする。さらに、地理言語学的分析を行い、方言分布の形成過程を解明する。

3. 研究の方法

- [1] ダバ語方言資料のドキュメンテーションについて：4年間の研究期間を通して現地調査を実施し、ダバ語が話される45村のうち、可能な限り多くの村の方言資料を収集する。ただしこの現地調査は、新型コロナウイルスによるパンデミックおよび現地情勢の影響で規模を縮小せざるを得ず、可能な範囲で実施することとした。調査内容は、当初は基礎語彙を中心とすることとした。それぞれの方言の音韻分析を行った上で、対照語彙集を作成する。このほか、将来的には対照例文集および語釈付きテキストの作成を目指す。
- [2] ダバ語文法の包括的記述について：申請者がこれまでに収集してきたメト方言資料を精査し、文法記述に着手する。なお、文法の全容を解明するために必要な追加資料を現地調査で収集することとしていたが、パンデミックおよび現地情勢の影響で実施できなかった。
- [3] ダバ語方言の歴史的形成過程の解明について：[1]で収集した方言資料にもとづき、方言特徴の地理的分布を描画する。この作業に当たっては45村すべてについて資料がそろっていることが理想的であるが、全村方言の資料を収集するには相当の時間がかかることが予想されるため、本研究課題の期間内には、主要方言の資料にもとづく試作版を作成することになる。この試作版言語地図にもとづき、方言区分の検討を行う。さらに、地理言語学的分析を試み、歴史的形成過程解明に道筋をつける。

4. 研究成果

[1] ドキュメンテーションの前提となる現地調査には上述のとおり予期しない障害が発生したものの、研究協力者であり中国四川省の西南交通大学に所属する黄陽が中心となって未調査地点の現地調査を行うことができた。日本人研究者は現地情勢の問題が重なったため本研究期間を通して現地に直接赴くことができなかったものの、研究代表者の白井および研究協力者の鈴木博之が都市部に住まないし通信環境が整っているなどアクセス可能な母語話者に調査を行い、数地点のデータを新たに収集した。現地調査によって得られた一次資料と先行研究に基づく二次資料を集約し、図1の14地点15変種の基礎語彙対照表を作成した。これらの地点はダバ語分布地域のほぼ全域をカバーしており、地理言語学的分析を加えることが可能となる規模である。また、メト方言における方向接辞と動詞のリストを発表するなど、成果公開も行った。

[2] ダバ語の文法記述については、現地情勢が原因で白井がメト方言の現地調査を行うことができなかったため、包括的参照文法の完成を次期プロジェクトに委ねることとした。しかし過去の資料を精査することにより、複数の項目について研究を進め、成果を公開することができた。具体的には、主題化、名詞句構造および体言化、人魚構文、証拠性、否定、方向接辞、証拠性、自己性、類別詞で、いずれも論文の形で発表を行った。また、黄陽はサショ方言の文法書をほぼ完成させ、近刊予定である。

[3] ダバ語方言の歴史的形成過程の解明について、[1]で収集したデータから言語地図を描画し、地理言語学的分析を行った。その結果、ダバ語の方言群が、南部、中部、北部の三つに分けられ、かつ、方言連続体を成していることを明らかにすることができた(図2)。つまり中部の方言は部分的に北部および南部の方言群と特徴を共有する。また、比較の観点からより重要な境界は中部方言と南部方言の間に引くことができるが、その境界線は、先行研究で南北境界とされていた行政区画の境界線よりも南の雅江県内にあり、少なくとも Yiwu よりも南であることが明らかになった。この成果は国際学会において発表したほか、論文の形で発表した。さらに周辺のチエン諸語を含めた地理言語学的分析にも発展させ、論文の形で発表した。



図1: 方言分布

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 20件）

1. 著者名 SHIRAI, Satoko	4. 巻 -
2. 論文標題 Variation in basic roots across dialects in nDrapa: Geolinguistic analysis in the Qiangic context	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Proceedings of the Fifth International Conference on Asian Geolinguistics	6. 最初と最後の頁 21-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5281/zenodo.8374568	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 SHIRAI, Satoko	4. 巻 3
2. 論文標題 Geolinguistics and Sino-Tibetan: An introduction	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Studies in Geolinguistics	6. 最初と最後の頁 146-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5281/zenodo.8437101	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 SHIRAI, Satoko; HUANG Yang	4. 巻 6
2. 論文標題 A geolinguistic approach to nDrapa dialectology	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages	6. 最初と最後の頁 109-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 SHIRAI, Satoko	4. 巻 162
2. 論文標題 Classifiers in nDrapa: Definition and categorization	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語研究	6. 最初と最後の頁 25-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11435/gengo.162.0_25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki, Hiroyuki; Shiho Ebihara; Kazue Iwasa; Keita Kurabe; Satoko Shirai	4. 巻 1
2. 論文標題 Subgrouping of Tibeto-Burman	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiho Ebihara; Kazue Iwasa; Keita Kurabe; Satoko Shirai; Hiroyuki Suzuki	4. 巻 1
2. 論文標題 'Mouse/rat' in Tibeto-Burman	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 44-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiho Ebihara; Kazue Iwasa; Keita Kurabe; Satoko Shirai; Hiroyuki Suzuki	4. 巻 1
2. 論文標題 'Chicken' in Tibeto-Burman	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 86-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiho Ebihara; Kazue Iwasa; Keita Kurabe; Satoko Shirai; Hiroyuki Suzuki	4. 巻 1
2. 論文標題 'Horse' in Tibeto-Burman	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 138-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiho Ebihara; Kazue Iwasa; Keita Kurabe; Satoko Shirai; Hiroyuki Suzuki	4. 巻 1
2. 論文標題 'Wolf' in Tibeto-Burman	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 180-182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiho Ebihara; Kazue Iwasa; Keita Kurabe; Satoko Shirai; Hiroyuki Suzuki	4. 巻 1
2. 論文標題 'Dog' in Tibeto-Burman	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 221-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiho Ebihara; Kazue Iwasa; Keita Kurabe; Satoko Shirai; Hiroyuki Suzuki	4. 巻 1
2. 論文標題 'Bear' in Tibeto-Burman	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Linguistic Atlas of Asia and Africa	6. 最初と最後の頁 253-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Huang, Yang	4. 巻 3.2
2. 論文標題 Classifiers in nDrapa: A Tibeto-Burman language in Western Sichuan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Languages and Linguistics	6. 最初と最後の頁 202-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/alal.22009.hua	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SHIRAI, Satoko	4. 巻 -
2. 論文標題 Connections of directional prefixes and verb stems in nDrapa.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 97-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SHIRAI, Satoko; NAGANO, Yasuhiko	4. 巻 -
2. 論文標題 Functional developments of directional prefixes in nDrapa and rGyalrong	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Function of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 81-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SHIRAI, Satoko	4. 巻 -
2. 論文標題 Negation in nDrapa: A morphosyntactic description	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 5: Diversity of Negation	6. 最初と最後の頁 167-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SUZUKI, Hiroyuki; EBIHARA Shiho; IWASA Kazue; KURABE Keita; SHIRAI Satoko	4. 巻 -
2. 論文標題 Stop series in Tibeto-Burman	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Studies in Asian and African Geolinguistics I "Stop series"	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 白井聡子	4. 巻 -
2. 論文標題 タバ語の名詞修飾表現と名詞句標識	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ブラシャント・パルデシ、堀江薫（編）『日本語と世界の言語の名詞修飾表現』	6. 最初と最後の頁 97-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SHIRAI Satoko	4. 巻 6
2. 論文標題 nDrapa	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Handbooks of Comparative Linguistics	6. 最初と最後の頁 465-510
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1515/9783110670844-011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SHIRAI Satoko	4. 巻 19.1
2. 論文標題 A geolinguistic study of directional prefixes in the Qiangic language area	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Himalayan Linguistics	6. 最初と最後の頁 365-392
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5070/H919142521	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 SHIRAI Satoko	4. 巻 4
2. 論文標題 Negative markers in Qiangic languages	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages	6. 最初と最後の頁 243 - 257
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 白井聡子	4. 巻 3
2. 論文標題 タバ語における広義の証拠性について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語の類型的特徴対照研究会論集	6. 最初と最後の頁 93-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 HUANG Yang	4. 巻 2020.4
2. 論文標題 Nominalization and relativization in nDrapa	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Minzu Yuwen	6. 最初と最後の頁 29-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井聡子	4. 巻 2
2. 論文標題 タバ語の主題を表す形式	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 言語の類型的特徴対象研究会論集	6. 最初と最後の頁 95-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SHIRAI, Satoko	4. 巻 -
2. 論文標題 Connections of directional prefixes and verb stems in nDrapa	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Grammatical Phenomena of Sino-Tibetan Languages 3: Functions of Directional Prefixes	6. 最初と最後の頁 97-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計22件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 白井聡子
2. 発表標題 ダバ語方言地図からの知見
3. 学会等名 2023年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 白井聡子
2. 発表標題 チャン言語圏への地理言語学アプローチ
3. 学会等名 国際シンポジウム：GISを用いて言語情報と非言語情報をつなぐ（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 SHIRAI, Satoko
2. 発表標題 Basic roots varying among dialects in nDrapa: A geolinguistic analysis in the Qiangic context
3. 学会等名 The Fifth International Conference on Asian Geolinguistics (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 SHIRAI, Satoko; HUANG, Yang
2. 発表標題 A Geolinguistic Approach to nDrapa Dialectology
3. 学会等名 The 55th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 SHIRAI, Satoko
2. 発表標題 Geolinguistic approach to Sino-Tibetan: An introduction
3. 学会等名 Pre-conference workshops of the 55th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 SHIRAI, Satoko
2. 発表標題 Can we find traces of the development of Qiangic classifiers in Tangut?
3. 学会等名 International Workshop: Studies of the Tangut from the viewpoints of researchers on TB minority languages (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Keita KURABE, Shiho EBIHARA, Kazue IWASA, Satoko SHIRAI, and Hiroyuki SUZUKI
2. 発表標題 System of 'Sibling' terms in Tibeto-Burman
3. 学会等名 The 5th meeting of the ILCAA Joint Research Project "Studies in Asian and African Geolinguistics"
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白井 聡子
2. 発表標題 ダバ語および他のチャン諸語における対を数える類別詞
3. 学会等名 2021年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白井聡子
2. 発表標題 ダバ語における類別詞の定義と分類
3. 学会等名 チベット=ビルマ言語学研究会第54回会合
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 白井聡子
2. 発表標題 川西民族走廊諸語における類別詞
3. 学会等名 日本地理言語学会第三回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SHIRAI, Satoko
2. 発表標題 'GO' and 'COME' in nDrapa
3. 学会等名 The Sixth Workshop on Sino-Tibetan Languages of Southwest China (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SHIRAI, Satoko
2. 発表標題 Egophoricity in nDrapa: Position and split
3. 学会等名 Workshop 'Evidentiality 2.0: Integrating egophoricity, focusing on equipollent contrasts, and re-examining visual evidentials' (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SHIRAI, Satoko
2. 発表標題 ダバ語の「焦点」に現れる音調について
3. 学会等名 言語類型対照研究会 第15回オンライン発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SHIRAI Satoko
2. 発表標題 Prosody of topic and focus in nDrapa
3. 学会等名 The 53rd International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白井聡子
2. 発表標題 ダバ語の語彙類型論的特徴
3. 学会等名 AA研共同利用・共同研究課題「東南アジア大陸部地域語彙の類型論的研究」2020年度第2回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 白井聡子
2. 発表標題 ダバ語及び周辺言語におけるいわゆる「属格」について
3. 学会等名 2020年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SHIRAI Satoko
2. 発表標題 Grammatical Relations in Tibeto-Burman
3. 学会等名 The 2nd meeting of ILCAA Joint Research Project “Studies in Asian and African Geolinguistics”
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SHIRAI Satoko
2. 発表標題 Theoretical Frameworks for Grammatical Relations in Asia and Africa
3. 学会等名 The 2nd meeting of ILCAA Joint Research Project “Studies in Asian and African Geolinguistics”
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SHIRAI, Satoko
2. 発表標題 Negation forms in nDrapa
3. 学会等名 The 27th Annual Conference of International Association of Chinese Linguistics (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHIRAI, Satoko
2. 発表標題 N-based nominalization in nDrapa
3. 学会等名 The 5th Workshop on Sino-Tibetan Languages of Southwest China (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SHIRAI, Satoko
2. 発表標題 Nominalization in nDrapa
3. 学会等名 Osaka International Workshop on Nominalization (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白井聡子
2. 発表標題 タバ語の証拠性再考 広義の証拠性の観点から
3. 学会等名 言語の類型的特点をとらえる対照研究会第12回公開発表会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 FUKUSHIMA, Chitsuko, Satoko SHIRAI, Mika FUKAZAWA, Hiroyuki SUZUKI, and Mitsuaki ENDO (eds.)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Linguistic Atlas of Asia and Africa Volume 3	5. 総ページ数 323
3. 書名 Geolinguistic Society of Japan	

1. 著者名 SHIRAI, Satoko; ENDO, Mitsuaki (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 73
3. 書名 Studies in Asian and African Geolinguistics II "Grammatical relations"	

1. 著者名 ENDO, Mitsuaki; MINEGISHI, Makoto; SHIRAI, Satoko; SUZUKI, Hiroyuki; KURABE, Keita (eds.)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Hituzi Syobo	5. 総ページ数 376
3. 書名 Linguistic Atlas of Asia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	黄 陽 (Huang Yang)	西南交通大学	
研究協力者	鈴木 博之 (Suzuki Hiroyuki)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------